

執筆要綱

(2004 年 1 月 12 日付)

1. 論文は和文または英文とします。英文の場合は、英語を母語とする外国人に校閲を受け、所定の校閲証明書を添付してください。
2. 原稿はすべて横書きとし、ワードプロセッサを使用する場合は A4 または B5 の用紙を用い、用紙 1 枚に 400 の整数倍の文字数を印字し、400 字詰原稿用紙に換算した枚数を表紙に明記してください。
図、表、写真はそのまま掲載できるものを送ってください。図は墨または黒インクで清書したものとし、当方でトレースをした場合は実費を徴収します。図、表、写真の挿入箇所を本文原稿用紙の欄外に、図○、表○、写真○と朱書し、記載してください。また、図、表、写真の説明は別の原稿用紙に一括して記載してください。
3. 原稿の第 1 頁に、論文題名、論文種別、著者(共著者)の姓名、所属(科名まで)とその所在地、筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)を明記してください。なお、著者(共著者)名には振り仮名をつけてください。
4. 原稿の第 2 頁に、論文の和文要旨を 400 字以内にまとめてください。また、要旨の次にキーワードを名詞形で 5 個以内記載してください。
5. 英文の題名、著者(共著者)のフルネーム、所属とその所在地、200 語程度の英文要旨、5 語以内の英語のキーワード、筆頭著者の連絡先(住所、電話、FAX、e-mail アドレス)を英語で明記してください。
6. 本文は原稿の 3 頁目からで、原著や短報では原則として、I. はじめに II. 方法 III. 結果 IV. 考察、文献の順に記載してください。
7. 外国語名(人名、薬品名など)は原語のまま用い、ワープロを使用するか、活字体で明記してください。ただし、日本語化しているものはカタカナ書きしてください。学術語はできるだけ訳語を用い、必要に応じて()内に原語を入れてください。数字は算用数字を用い、度量衡単位は、m, cm, mm, cm², ml, l, dl, kg, g, mg, などを使用してください。
8. 論文末の文献は、本文中に引用されたもののみにします。文献の記載順序は著者名のアルファベット順とし、同一著者の場合は発表順とします。引用文献は、原著で 30 個以内、短報で 15 個以内とします。
9. 本文中で文献を引用する場合は、引用箇所に著者名と発表年を記載してください。
例：長谷川(2003)によると…、…とされている(井上ら 1998)。
同一著者について同じ年に複数の引用文献がある場合は、年数にアルファベットを付記してください(例：2003 a, 2003 b)。
10. 文献の書き方は統一し、外国雑誌の略名は原則として Index Medicus に従ってください。
文献の著者が 4 名以上の場合は最初の 3 名を、また編者が 3 名以上の場合は最初の 2 名を記載し、他は「……、他」、または「et al」としてください。

〔雑誌の場合〕

著者名：論文題名、雑誌名(略名) 巻：最初の頁－最後の頁、発行年度

例 1) Breedin SD, Martin RC : Patterns of verb impairment in aphasia : an analysis of four cases. Cognitive Neuropsychology 13 : 51-91, 1996

2) 貫名信行：アルツハイマー病脳の免疫組織化学的研究。神経進歩 30 : 932-946, 1986

3) 大山玄, 上枝仁美, 中川伸一, 他：歌唱時の生理的パラメータと音響パラメータの関係についての一検討—声門上下圧の検討。音声言語医学 42 : 55-58, 2001

〔単行本の場合〕

・単独または共同執筆の場合

著者名：書名、引用の最初頁－最後頁、出版社名、発行年

例 1) 笹沼澄子, 綿森淑子, 福迫陽子, 他：失語症の言語治療, pp 60-74, 医学書院, 1993

・分担執筆の場合

著者名：題名、論文題名、編者名(編)：書名、引用の最初頁－最後頁、出版社、発行年

例 1) 大井 学：特異的言語発達障害。西村辨作(編)：ことばの発達と障害 2—ことばの障害入門, pp 94-100, 大修館, 2001